

《担当者名》講師／安藤 佐土美 satoan@

【概要】

口腔粘膜と皮膚は発生学的に基を一つにする器官であり、構造・機能の共通点が多くみられる。口腔内病変が特徴的な皮膚疾患や、全身の皮膚症状の一部として口腔内病変がみられる皮膚疾患があり、歯科医師は皮膚科学を学ぶことにより、これらの疾患に適切に対処することが望まれる。講義では皮膚の構造・機能の特徴および診断学・治療学について学び、これらの知識を歯科診療に役立てていくことを目指す。

【学修目標】

- ☆皮膚と口腔粘膜の構造の類似点及び相違点を理解する。
- ☆皮膚と口腔粘膜の機能を理解する。
- ☆皮膚症候学・診断学・治療学について理解する。
- ☆口腔内病変を呈する皮膚疾患について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	1. 皮膚の構造と機能および口腔粘膜との比較	①皮膚の肉眼的・組織学的構築及び各部の微細構造と皮膚の機能（はたらき）を関連づけて総合的に概説できる。 ②皮膚と口腔粘膜の構造の類似点及び相違点について概説できる。	安藤 佐土美
3) 4	皮膚科症候学・診断学・治療学	①皮膚および粘膜の病変について概説できる。 ②皮疹の種類について概説できる。 ③皮膚疾患の診断法について概説できる。 ④皮膚疾患の治療法について概説できる。	安藤 佐土美

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

◇皮膚科学（前期講義）の評価方法

- ・〔皮膚科学（前期講義）評価方法〕筆記試験又はレポート（100%）
- ・〔判定法〕筆記試験又はレポートで評価し、60点以上を合格とする。

【参考書】

山崎雙次、山本浩嗣、山根源之：歯科医のための皮膚科学 第2版 医歯薬出版 2004年

梶島健治：人体最強の臓器 皮膚のふしぎ 講談社 2022年

【備考】

必要に応じてプリントを配布する。

【学修の準備】

- ☆予習として、次回内容を参考書で確認する（30分）。
- ☆復習として、講義内容で疑問のあった箇所をまとめる（30分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)と当該授業科目の関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を皮膚科学として身につけている。（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP3. 安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために、生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を皮膚科学として身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる

能力を皮膚科学として身につけている。（多職種連携能力）

【実務経験】

安藤 佐土美（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

皮膚科専門医であり、その実務経験を活かし、歯科治療において経験することの多い皮膚口腔粘膜疾患について効果的な教育が期待できる。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している